

(平成30年度用)

各種健診検査項目と意義

期限 2019年3月末日

検査項目		検査の意義	日帰り 人間ドック	生活習慣病 予防健診	生活習慣病 予防健診SP	定期健診A	定期健診B	特定健診
内科診察	診察所見	問診票をもとに、医師・看護師が病歴・服薬歴・自覚症状に関し、補助的な質問をさせていただきます。	○	○	○	○	○	○
身体測定	身長・体重	身長・体重を測定し、標準体重・BMI(体格指数)・肥満度などを算出します。	○	○	○	○	○	○
	腹囲	立位で臍の高さの腹囲を測定し、内臓脂肪の指標とします。	○	○	○		○	○
血圧	収縮期(最高)血圧	血圧は心臓の拍動により動脈の壁にかかる圧力を示します。	○	○	○	○	○	○
	拡張期(最低)血圧	収縮期(最高)血圧/拡張期(最低)血圧のいずれが基準値以上でも高血圧と判定されます。高血圧が続くと、心臓の負担だけではなく動脈硬化に繋がり、心筋梗塞や脳卒中などの危険が増します。						
眼科検査	視力	左右の裸眼・矯正視力を測定。 0.9以下は要注意、0.6以下は眼科でのチェックをお勧めします。	○	○	○	○	○	
	眼圧	眼球の角膜と水晶体の間の圧で、緑内障などで高値となります。 自覚症状がなく進行することがありますので、注意が必要です。	○		○			
	眼底カメラ	眼底底部の網膜の状態を診ます。	○		○			
聴力検査	聴力	会話領域指標としての1,000Hzと、高齢性難聴などで初期に低下する4,000Hzの聴力を左右測定します。加齢による低下もありますが、聴力異常は早期治療が肝心なものが多いため、生活に差し障りがなくとも油断禁物です。	○	○	○	○	○	
脂質	総コレステロール	中性脂肪・HDLコレステロール・LDLコレステロール・その他のコレステロールの総量。脂質は身体活動のエネルギー源の一つで、細胞膜や各種酵素などになります。血中濃度が高く続くと動脈硬化の原因となります。	○	○	○		○	
	中性脂肪(TG)	食事から摂取される脂肪の主な成分。過剰に摂取すると、脂肪肝や肥満、動脈硬化に進展します。検査前の飲酒や食事内容の影響を受けやすい項目です。	○	○	○		○	○
	HDLコレステロール	いわゆる『善玉』コレステロールで、余分なコレステロールを肝臓へ運んで分解します。低下すると動脈硬化に進展します。	○	○	○		○	○
	LDLコレステロール	いわゆる『悪玉』コレステロールで、過剰になると、動脈硬化に進展します。	○	○	○		○	○
	LDL-C/HDL-C比	悪玉と善玉コレステロールの比を表し、LDL・HDLともに正常でも、この比が高くなると動脈硬化に進展することがあります。	○	○	○		○	○

糖代謝	尿糖	尿中のブドウ糖値で糖尿病の有無を判定します。糖尿病ではなく血糖値が正常範囲にもかかわらず陽性になることもあります。	○	○	○	○	○	○
	空腹時血糖	血中の糖分は膵臓のインスリンによって調整されますが、膵臓疾患により分泌量が減少したり、肥満などでインスリンに対する感受性が減少したりすると高値となり、糖尿病と呼ばれます。	○	▲	○		○	▲
	ヘモグロビンA1c (HbA1c)	ブドウ糖が結合したヘモグロビン(血色素)の一種で、過去1~2ヶ月の血糖値の状態を示します。	○	▲	○		○	▲
肝機能	AST(GOT)	アミノ酸生成に関わる酵素の一種で、肝臓・心筋・骨格筋・赤血球など存在します。肝臓障害や心筋梗塞などで上昇します。	○	○	○		○	
	ALT(GPT)	アミノ酸生成に関わる酵素の一種で、主に肝臓・胆道・腎臓に存在し、肝炎や脂肪肝などの肝臓障害で上昇します。	○	○	○		○	
	γ-GT(γ-GTP)	蛋白質分解に関与する酵素の一種で、肝臓・腎臓・膵臓などに存在します。特にアルコール性肝障害で鋭敏に増加します。	○	○	○		○	
	ALP	リン酸化合物の分解に関与する酵素の一種で、肝臓・骨・小腸などに存在します。肝・胆嚢・骨疾患で上昇します。	○	○	○			
	BIL/総	ヘモグロビン(血色素)の代謝産物で、肝・胆嚢系障害などで上昇します。	○		○			
	総ビリルビン	肝臓系・堪能系の障害により上昇します。黄疸の指標です。	○		○			
	総蛋白(TP)	蛋白質は肝臓で再合成され、血中蛋白量は栄養状態や肝機能の指標となります。	○		○			
	アルブミン(Alb)	血中蛋白量の65%を占め、血液の循環や体水分保持に関与しています。栄養状態が悪い場合や肝障害があると低値になります。	○		○			
	アルブミン/グロブリン比	蛋白成分の中のアルブミンとグロブリンの比を調べます。肝障害や腎障害などがあると低値を示します。	○					
LDH	肝障害・腎不全・心筋梗塞・溶血などで上昇します。			○				
尿検査	尿蛋白	腎炎・ネフローゼなどの腎疾患で陽性となり、健康な方でも一過性に陽性になります。	○	○	○	○	○	○
	尿糖	尿中のブドウ糖値で糖尿病の有無を判定します。糖尿病ではなく血糖値が正常範囲にもかかわらず陽性になることもあります。	○	○	○	○	○	○
	潜血反応	腎炎/尿路・膀胱などの感染/結石/腫瘍などで陽性になります。女性の場合、生理の前後でしばしば陽性になります。	○	○	○	○	○	
	ウロビリノーゲン	ビリルビンの代謝産物で、健康人でも少量出現します。肝障害などで高値に出ます。	○		○			
	尿沈渣	尿に腎臓/尿管/膀胱などの内面から脱落した細胞、赤・白血球、結晶成分、細菌などが含まれていないかを調べます。	○		○			
	比重、pH	比重は腎臓の尿の濃縮力、含まれる成分(塩分・尿素など)量などで変動します。尿健常者の比重は、1.002~1.035の間です。pHは尿の酸性かアルカリ性を調べる検査で、健常者は、pH6.0~6.5前後と弱酸性です。	○		○			

腎機能	クレアチニン(Cr)	体内の老廃物の指標で、脱水や腎機能低下時に上昇します。	○	○	○			
	糸球体濾過量 (eGFR)	年齢・性別などを加味して、筋肉量を補正して計算した腎臓の濾過機能です。	○	○	○			
	尿素窒素(BUN)	体内の老廃物の指標で、腎障害のほか脱水や肝障害・腸管出血などでも上昇します。			○			
	尿酸(UA)	蛋白の一種のプリン体代謝産物でカロリー過剰摂取・腎機能低下・血液疾患などで上昇し、高値の場合、痛風・尿路結石・動脈硬化などの危険性が高まります。	○	○	○			
肝機能	血清アミラーゼ	肝機能異常が予測される場合に行います。お酒を飲まれる方はご注意ください。	○		○			
電解質	Na・K・Cl・Ca・P	体液中のイオン濃度を測定し、バランスの崩れを調べて体内の障害を診断			○			
血液一般	白血球数(WBC)	炎症や感染・血液疾患・喫煙などで上昇し、脾臓機能の亢進・ある種の薬物の影響などにより減少します。	○	○	○		○	
	赤血球数(RBC)	血色素(ヘモグロビン)を含み、全身に酸素の運ぶ役目を担っています。貧血では、減少します。	○	○	○		○	
	血色素量(Hb)	赤血球中に存在し、酸素の運搬を担う蛋白で、貧血では減少します。	○	○	○		○	
	ヘマトクリット(Ht)	血液中に占める血球(主に赤血球)の割合を示します。貧血では減少します。	○	○	○		○	
	貧血分類指(系)数(MCV, MCH, MCMC)	赤血球一個の体積・血色素量・血色素濃度を計算し、貧血の分類をします。	○		○		○	
	血小板数(PL)	止血機能に関与する血液成分で、慢性炎症・血液疾患で上昇、肝硬変・ある種の薬剤の影響などで減少します。	○	○	○		○	
	血液像(細胞分類)	白血球の細胞成分の割合を調べます。各種疾患で様々な変動が見られます。	○		○			
血清(炎症)	C反応性蛋白(CRP)	体内の炎症時などに増加する蛋白質の一種です。	○					
肺機能	肺活量 %肺活量	最大吸気から最大呼気の間に出される空気量を調べます。またその標準に対する割合をみます。	○					
	一秒量 一秒率	最大吸気から一秒間に吐き出される空気量を調べます。またその肺活量に対する割合をみます。	○					
	肺年齢	一秒量から逆算して、肺年齢を求めます。	○					
	酸素飽和度	動脈血の血色素のうち、酸素と結合しているものの割合です。	○					
糞便検査	潜血反応(2日法)	大腸～直腸(下部消化管)からの微量出血(便中の血色素成分)を調べます。	○	○	○			
心電図	12誘導	心臓の電気活動から、伝導障害・不整脈・心筋障害(肥大・虚血・梗塞)などを診断します。循環器内科の専門医が診断します。	○	○	○		○	
	心拍・脈拍数	1分間の心拍動数(通常は脈拍と同数)、1分間の脈数(通常は心拍数と同数)です。	○					

胸部X線	直接撮影	胸郭・肺・心臓・胸部大血管などのレントゲン撮影検査です。呼吸器専門医が判定します。	○ (2枚)	○ (1枚)	○ (1枚)	○ (1枚)	○ (1枚)	
胃部X線	直接撮影	発泡剤とバリウムを併用した、胃炎・胃潰瘍・ポリープ・胃がんなどが対象の胃部レントゲン透視検査です。消化器内科・放射線科の専門医が判定します。	○ (8枚)	○ (7枚)	○ (7枚)			
腹部超音波	断層撮影	超音波を用いて、肝・胆・脾・腎臓などの腫瘍・嚢胞・結石・脂肪肝・他を調べます。消化器科・放射線科の専門医が判定いたします。	○					
子宮がん	細胞診(子宮頸部)	子宮頸部の粘膜細胞を採取し、顕微鏡検査でがん細胞の有無を調べます。	★	★	★			
乳がん	マンモグラフィ	乳腺専用のX線撮影です。マンモグラフィー検診精度管理中央委員会認定技師が撮影します。	★	★	★			
前立腺がん	前立腺特異抗原(PSA)	前立腺がんの特異性の高い腫瘍マーカーですが、前立腺肥大でも上昇がみられます。	☆	☆	☆			
健康相談	医師・管理栄養士・保健師による保健・栄養指導など	健康増進や健康不安、生活習慣病など個別に栄養相談、保健相談や運動指導などをします。また検査結果の説明も当日行います。	希望者 ○					
★ 女性で検査希望の方子宮がん検診は3,100円、乳がん検査マンモグラフィーは、5,940円必要です。								
☆ 男性で検査希望の方、2,100円必要です。			39,000円	18,500円	24,090円	3,900円	8,900円	8,437円
▲ いずれか1項目(空腹時血糖またはヘモグロビンA1c)とさせていただきます。								

全国健康保険協会(協会けんぽ)
ご加入で35歳以上～75歳未満のご本人様は、
**生活習慣予防健診を7,030円の一部負担金
(国が11,470円を補助)で受診頂けます。**

生活に大きな支障をきたす
脳卒中／動脈硬化／骨粗鬆症／更年期など
に対する様々なご要望にお応えするため、
**脳ドック、肺ドックなどオプション検査
のご案内を設けています。
オプション検査のご案内をご覧ください。**

その他、がん健診の多くは、各市町村により受診費用の補助が設けられてあります。詳しくは、お住まいの市町村の窓口にお問い合わせください。